

図書館だより

平成25年1月11日
矢祭町立内川小学校
学校図書館担当：石井

寒いですね！お子さんと一緒に、お部屋で読書しませんか？

短かったけれど、イベント盛りだくさんな冬休みが終わり、また学校生活が始まりました。クリスマスやお正月の出来事や、課題だった読書感想画が子どもたちの話題になっています。

12月の図書館利用

★貸し出し冊数★ 12月・・・65冊



1人平均冊数・・・ 3.8冊
総ページ数・・・ 6808ページ
一人平均ページ数・・・ 400.4ページ

12月は、17人で合計65冊、一人平均3.8冊でした。12月は、冬休みに向けて、本の返却のみしか行えませんでした。しかし、1人の平均冊数は目標の2冊を上回っていました。またどの学年も、『ぼくらの』『おぼけマンション』『14ひき』『まめうし』『妖怪レストラン』『妖怪ホテル』『怪傑ソロリ』『マリア探偵社』などシリーズ本を借りる児童が多くなってきました。シリーズ本の中には、何十冊ものお話があるものもありますが、折角ですのでぜひ読破してほしいと思います。これからもたくさんの本と児童の皆さんが会えるよう、多くの本を紹介していきたいと思います。

2学期の図書館利用

★貸し出し冊数★
8月・・・ 48冊
9月・・・ 57冊
10月・・・ 78冊
11月・・・ 109冊
12月・・・ 65冊

2学期合計冊数・・・ 357冊
1人平均・・・ 22冊
総ページ数・・・ 31352ページ
1人平均・・・ 1844.2ページ

2学期は、11月まで貸し出し冊数の増加が見られました。この要因として、2学期からブックバンクの様式を変更したり、11月から金曜日の本の貸し出しを2冊にしたことなどが考えられます。枠内のどの項目も、1学期の1.5倍以上の結果となりました。子どもたちは、1学期以上に多くの本と出会うことが出来たようです。

情報委員会が読書がんばった児童の表彰をしました！

情報委員会では、毎学期、学年毎に本をたくさん読んだ人を表彰しています。2学期も、終業式の後に時間を頂いて、表彰を行いました。表彰された児童のお名前を紹介します。なお、この冊数は、1学期は7月13日まで、2学期は、11月30日までに読んだ本の冊数になっています。

<1学期>

1年生	菊〇	〇太くん	34冊	2年生	蓮〇	〇成くん	33冊
3年生	菊〇	〇稀くん	11冊	4年生	茂〇	〇美さん	10冊
5年生	鈴〇	〇紗さん	9冊	6年生	茂〇	〇香さん	11冊

<2学期>

1年生	片〇	〇紀さん	39冊	2年生	沼〇	〇希くん	25冊
3年生	藤〇	〇くん	14冊	4年生	茂〇	〇美さん	10冊
5年生	鈴〇	〇紗さん	15冊	6年生	茂〇	〇香さん	25冊



表彰の様子
一学期



表彰の様子
二学期

保護者のみなさんへ

9月号の『図書館だより』でお伝えした、6つのご提案のうち、10月から継続してご協力をお願いしている ③ お子さんのレベルにあった本を与える ④ 家族で図書館に出かける は、少しでも実行できましたでしょうか？

今月からは、⑤ 読書している姿を褒める ⑥ 食卓で本のことを話題にする を目標にさせていただければと思います。10月号から、先生方が『小学生の頃に読んでいたオススメの本』をご紹介します。今月で終了してしまいますが、お家の方も、小学生の時大好きだった本があったのではないのでしょうか？自分の好きだった本を自分の子どもにも読むことができ、また大人になって読み返すことができるのも読書の素敵な所です。家族でオススメの本を紹介し合うのも素敵ですね！お忙しいとは思いますが、家族団らんの一つの話題に加えてみてはいかがでしょうか？

児童のみなさんへ！！

先生たちのオススメ！！最終回！！

10月から始まった先生たちのオススメですが、いよいよ最終回となりました。最後の第4回目は、校長先生と塙先生のオススメの本をご紹介します！

「校長先生のおすすめの本」

4月の全校集會でお話しました星野富弘さんの詩画集をご紹介します。星野さんは1970年、群馬県の中学校の体育の先生になりました。その2ヶ月後、宙返りのお手本を見せたその瞬間、床に落ち、手足が動かなくなりました。入院中、多くの方々に励まされた星野さんはせめて「ありがとう」の気持ちを伝えたいと思い口に筆をくわえて字を書くようになりました。病室にあった花もかくようになりました。1982年、初めての詩画集「風の旅」が出されます。「あなたの手のひら」は1999年に出されたものです。その他にも多くの本が出されています。詩画を通して命の尊さ、やさしさを静かに語っています。校長室に5冊ありますので、読みに来てください。



「塙先生先生のおすすめの本」

先生の子どもたちが小学生の頃、一緒に読んだ本の中から紹介したいと思います。小さい頃は、「くじらぐも」を書いた中川李枝子さんの「ぐりとぐら」のシリーズが好きでよく読みました。それから、「お手紙」を書いたアーノルド・ローベルさんの「がまくんとかえるくん」が出てくる「ふたりはともだち」なども読みました。少し大きくなってからは、お昼の放送で千宙君がおすすめしてくれた宮沢賢治さんが書いた本なども読みました。これらの本はどれも国語の教科書の中に出てくるお話を書いた作者の本ですが、本を探すときに、作者にも目を向けて、同じ作者の本を何冊か続けて読むのも楽しいと思います。お気に入りの作者を見つけてみてください。



新しい本が入りました！！

新しい本が91冊入りました。その中には、何と！！みんなの大好きな漫画『ONE PEACE』68冊があります。これは、一昨年の震災の時、1冊の『ジャンプ』を被害にあった東北の多くの子どもたちが回し読み、心の支えにしていたというエピソードから、東北6県の小学校へ集英社から申し出があり、寄贈頂きました。みんな大好きな本です、そして、たくさんの人の思いが詰まった特別な68冊です、大切に読んで下さいね。

他にも、『なんでも魔女商会』シリーズの続編やいろいろなお話のある『新・童話の海』シリーズなど、素敵な本がたくさんあります。ぜひ、読んで下さいね！

『新・童話の海』シリーズ

日常の迷いや悩み、それを超える感動や希望をつめこみ、わくわくやドキドキにあふれた男の子も女の子も楽しめるシリーズです。

シリーズ①『わたしはなんでも知っている』

小学4年生にして、「世の中のことなんでも知っている」と思っているクス子。ある日奇妙なおじいさんから「知らないことがどんどんわかる薬」をもらい・・・。

他7冊あり、バラエティ豊かなラインナップになっています。



『なんでも魔女商会』の続編4冊

魔法を使わずに、心をこめて洋服をリフォームする魔女シルク。森の中でこのお店を見つけた人間のナナ。森の仲間から寄せられるリフォームの注文に、2人は知恵と工夫で応じます。やさしさあふれる物語と、簡単な手芸品の作り方がついたシリーズです。



『ONE PIECE』

第1巻から第68巻「海賊同盟」まであります。漢字にはふりがながふってあるので、習っていない漢字の読み方を知ることができます、絵とストーリーから言葉の意味が分かたりすることもあります。少しだけそうしたことへ意識を持ちながら、読んでみて下さい。



松〇〇宙くんの読書感想文が県で佳作をとりました！

昨年、福島県読書感想文コンクールにおいて、6年生の松〇〇宙くんが、東白川郡の審査会で特選に選ばれ県のコンクールへと出品されました。結果は佳作でした。学校の代表、東白川郡の代表として選ばれた感想文です。とても素晴らしいので、みなさんにもご紹介します。内川小学校の代表に選ばれた人の作品は、平成24年度の『ともしび』に掲載されますので、ぜひ読んで下さいね！

「なめとこ山の熊」を読んで

内川小学校 六年 松〇〇宙

ぼくがこの本を読もうと思ったきっかけは、国語の教科書に出てきた宮沢賢治の作品です。

宮沢賢治の他の作品を読みたいと思うようになり、学校の図書室で探してみたら、作品集が見つかりました。読んでみると、夢中になってしまう話がたくさんありました。その中でも「なめとこ山の熊」という話がとても印象に残りました。

この本の主人公は、淵沢小十郎という猟師です。小十郎は、山に入つて熊をかり、その熊の毛皮や胆を売って暮らしていました。

ぼくが特に印象に残った場面は、小十郎がたおした熊に対して話しかけたところです。

小十郎は、

「熊。おれはてまえをにくくて殺したのではねえんだぞ。」

「やい。この次には熊なんぞに生まれなよ。」

と熊に話しかけるのです。

この場面からは、小十郎の気持ちがよく伝わってきました。小十郎は、本当は熊の命を奪いたくないという気持ちがあるやさしい猟師なのだと思います。しかし、生活のため、自分が生きていくためには、熊の命を奪い、その毛皮や胆を売ってお金をかせがないといけません。だから、自分が命を奪った熊に謝るような言葉をかけているのです。

この話の最後に、死んだ小十郎がたくさん熊たちに囲まれてまつられる場面があります。今まで小十郎は多くの熊の命を奪っていました。その熊たちが別れを悲しむような気持ちを表しているのは、初めは不思議な感じがしました。でもよく考えてみると、それは小十郎がいつも熊に対して感謝の気持ちをもっていたからなのだと思います。

このような小十郎の姿から、ぼくが学んだことは二つあります。

一つ目は、命のつながりについてです。ぼくたちは、生活している中で、牛や豚、鳥などの肉を食べて暮らしています。つまり、生き物の命をいただいで生きています。今まで、ぼくはそんなことをあまり意識したことがありませんでした。しかし、小十郎が熊を殺した場面のせりふを読んだときに、人間は命をいただいで生きていくということに気付かされました。人間の命は、いろいろな生き物の命とつながっているのだと思います。

二つ目は、命に感謝する気持ちや、命を大切にすることを覚えました。ぼくたちは、いつも食事をするとき「いただきます」「ごちそうさまでした」と言っています。これらの言葉には、生き物の命をいただくことへの感謝の気持ちが表示されています。昔からあるこれらの言葉の意味について、小十郎からあらためて教えてもらった気がします。ふだん口にして

いるこれらの言葉に、しっかりと感謝の気持ちをこめて使わないといけないなと思いました。これからも、小十郎の姿を思い出しながら、命の大切さやありがたさを忘れずに生活していきたいです。

